

7-1. 市民参画と協働による事業方針

1) 市民参画の基本的な考え方

現在、台峯緑地では、幾つかの市民活動団体が台峯緑地の豊かな自然環境を市内外にアピールし、また緑地内で定期的な保全活動を行っており、多くの参加者を得ている。

台峯緑地は、全面保全に向けた市民の懸命の努力によって守られてきた緑地である。このような市民自らが守り育ててきた経緯を尊重し、今後とも市民によって継承されるような事業展開を図ることを検討する。

台峯緑地にとって市民参画が重要である主な理由は以下の2つである。

- 参加体験型の市民ニーズ
- 里山の自然は人的な維持管理が必要

多様な生態系が共存する里山は、人の手がつねに入ることによって初めてバランスが保たれる自然である。行政だけではまかないきれない継続的できめ細かな観察と維持管理には、協働を含めた市民参画が欠かせない。

市民の豊富な知識と経験、実行力に期待し、市民との協働で方針を策定し、市民・行政が一体となった仕組みを相互の理解と協力を基に築き上げる必要がある。

※参画 ・政策や事業などの計画に加わること。
単なる参加ではなく、より積極的に意思決定過程に加わるとの意味である。

※協働 ・市民と行政がお互いに対等・不可欠な関係であることを認識し、同じ目的のために協力すること。

台峯緑地をとりまく現状	市民参画に期待される役割	
	活動項目	活動内容（案）
○参加体験型の市民ニーズ - 参加体験型の余暇、緑とのふれあい、地域活動への興味の高まり - すでに台峯緑地を対象とした幾つかの市民活動が行われている。 - 長年に渡る市民活動により保全に至った緑地であるため、市民の関心が高い。 ・	① 情報発信 ② 普及啓発 ③ 人材育成	⇒ホームページの作成 ⇒広報、パンフレットの作成 ⇒観察会、エコツアーの開催 ⇒自然解説、樹林・湿地管理等の専門知識の整理、伝達
○里山の自然は人的な維持管理が必要 - 薪炭林であったコナラ林、スギ・ヒノキ林などの二次林は、密度管理を行わないと樹勢が弱り、林床が貧弱し、樹林自体の保水力も鈍ってくる。里山の樹林は、人の手による適正な密度管理が必要な自然である。 - 水田利用されていた湿地は放っておくと乾燥化が進み陸化が進行する環境にあり、湿地の多自然性を維持するためには人的な維持管理が必要である。 - 畑地については、放置されたままでは荒れた環境になるため、畑作の継続などの活用や遷移のサポートなどの人的な維持管理が必要である。 - 各所に耕作放棄地のアズマネザサ群落やクズ群落が見られるため、これらを草地または樹林地へ遷移再開を図るための人的な維持管理が必要である。	④ 環境モニタリング （樹林管理、湿地、農耕地、草地管理への反映） ⑤ 樹林管理 ⑥ 湿地管理 ⑦ 農耕地管理 ⑧ 草地管理	⇒自然環境調査 ⇒人為圧の影響調査 ⇒樹林管理プログラムの作成と実施 （密度管理、林床管理、苗木植栽 等） ⇒湿地管理プログラムの作成と実施 （水位管理、ヨシ管理、浚渫、水田再利用 等） ⇒農耕跡地管理プログラムの作成と実施 （畑作の継続 等） ⇒草地管理プログラムの作成と実施 （草刈 等）

表 7-1 市民参画に期待される役割

7－2．事業費

本構想に基づく事業費として、当資料では既に平成１７年１月、鎌倉市山崎台土地区画整理組合設立準備委員会と鎌倉市との間で相互に確認された緑地保全の基本的方向性に基づいた計画面積 25.7ha（公簿）の用地取得についてまず示すこととするが、それ以外の部分約 12ha については今後の検討課題とする。

１）事業費

① 用地取得費（区画整理事業の施行が予定されていた区域）

項目	金額	備考
用地取得費	約 60 億円以内 (平成17年度における想定価格)	取得対象地 約 25.7ha

② 工事費（直接工事費）

項目	金額（千円）	備考
i）基盤整備費	29,200	耕作跡地整備（1.76ha）、小広場整備（0.28ha）
ii）園路整備費	10,400	約 3.2 km
iii）施設整備費	26,600	トイレ 2 棟、倉庫 2 棟、更衣室 等
合計	66,200	経費込 工事費：112,500 千円

③ 年間管理費（直接管理費）

項目	金額（千円）	備考
i）樹林管理 - A	29,000	11.6ha 下草刈り、ツル切り、枝払い、間伐 等
ii）樹林管理 - B	1,280	12.8ha 園路沿い等の下草刈り、ツル切り、枝払い 等
iii）樹林管理 - C	2,320	11.6ha 必要に応じてツル切り 等
iv）湿地管理	1,700	1.7ha 水路管理、草刈り 等
合計	34,300	経費込 年間管理費：41,200 千円

表 7－2 事業費概算